

我ら 50 期 ここにあり

誰かの役に立つことが仕事になる

以前にお話した、「住む」「食べる」以外でも、私たちの生活は誰かの仕事によって支えられています。たとえば隣町へ行きたい場合、徒歩でも移動できるかもしれませんが、バスや電車を使えば早く、疲れずに目的地にたどり着けます。バスや電車を運転する仕事、運航する会社があるから、私たちはそれらを利用できます。たとえば髪が伸びた場合、伸びっぱなしでも死にはしませんが、きれいに買いをカットしてもらえるとスッキリします。美容師の仕事が私たちの気分をよくしてくれるのです。いろいろな仕事の共通点は何だろうという視点で世の中を見てみると、「どんな仕事も誰かの役に立っている」「誰かにとって必要なもの・ことが社会の中で仕事として存在している」ということがわかります。私たちは一人では生きていくことができない、だから生きていく上で必要な手助けが『仕事』として存在している。そう考えると世の中ってとてもシンプルだと思いませんか？なぜ私たちは働くのか、その答えの一つは、助け合いでつくられるこの社会の一員になるためです。社会の中で助けられるだけでなく、自分も自分ができることをして誰かの役に立つ、社会に貢献する、それが私たち一人ひとりのすべきことなのです。「自分なんて誰の役にも立てないのでは…」などと、不安に思う必要はありません。しっかりと自分の将来を考えて生きていけば、必要とされる場所は誰だって必ず見つけられます。

もっと本を読もう

どんな科目にしろその学習の基礎は言葉の理解力、言語能力ですし、テストの出来、不出来もほとんどすべてがその人の言語能力の如何にかかっているととっても過言ではありません。子どもの言語能力を高めるには、一に読書、二に読書、三・四がなくて五に読書と考えてもいいくらいです。小テストやドリルをするよりも、思考力、集中力、読解力もグンと伸びます。